

おひめ

JA全農えひめ情報

■特集

肥料の新たな共同購入の取り組み

12

2017・December



愛媛の酒蔵めぐり

26

▶ 来年は増産体制の「おくりおくらPREMIUM」を手に清水社長（左）と、「宝泉坊」入賞の朗報に「はだか麦」とれたのが本場にうれしく、社員一同喜びました」と佐々木営業推進係長



株式会社媛囃子

創業者 1941年（昭和16年）
代表取締役 清水 健太郎
住所 西予市城川町魚成4598番地
TEL 0894-82-0008

▲（右）はだか麦焼酎「百点まんてん」。「宝泉坊」同様に、はだか麦を使った本物にこだわる逸品
（中）粕取り焼酎「大師」。清酒粕を原料に10年以上眠らせ、とろとした舌ざわり、ふくいくとした甘い香の古くから愛される焼酎
（左）栗焼酎「おくりおくら」。3年貯蔵熟成。栗のほのかな香と甘みが特徴



焼酎造りの発端は200年前に地元・魚成地区のほつば大師の水を使った「大師」銘の焼酎を造っていたことに始まります。「媛囃子」の名は、落ちのびた平家の姫らが笛や鼓で囃子を奏で、舞ったことに由来します。

媛囃子は四国で数少ない焼酎専業蔵です。昭和50年頃には高品質の城川栗を使った全国初の栗焼酎を製造、今は県産栗を100%使用しています。今秋には、栗の味や香をもっと引き出すべく、鬼皮ごと蒸した煮栗を焙煎し豊かな風味を実現した限定栗焼酎「おくりおくらPREMIUM」を新発売するも、話題先行にて予約完売という嬉しい誤算がありました。

15年ほど前からは、県産はだか麦を使ったはだか麦焼酎を製造。香ばしい麦の原料特性が出やすい常圧蒸留方式による芳醇濃厚な焼酎は、当初は個性が強いとも言われました。時の流れとともに嗜好が変化し、この度ははだか麦焼酎「宝泉坊」は、「本格焼酎・泡盛鑑評会」で成績上位酒に認定され、国酒リストに名を連ね外務省に提供されます。

「県産の良質な農産物だから良い焼酎が生まれます。焼酎は数年寝かせる価値とリスクを併せ持つ面白みがあります。媛囃子は田舎の小さな蔵ながら、国内一円の販売網、国外へ認知されようとする面白みのある蔵です。歴史を継承する技術力で、時代のニーズに応える丁寧な造りをし、焼酎の良さを広めていければ」清水社長は控えめな口調で力強く語られます。

めぐり〜ど

2017 年 12 月号

CONTENTS

全農グループの経営理念

私たち全農グループは、
生産者と消費者を安心して結ぶ
懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

今月の表紙



起きがけに威勢よく雨戸を開けた子どもたちの目に飛び込んできた白い世界。背後で「寒いから早く戸を閉め…」おばあちゃんの声は子らの歓声にかき消され、犬は喜び庭かけまわり、枯れ木に花が咲く、まるで童謡『雪』の世界のようです。おじいちゃん、お父さんの朝採れ野菜は台所へ運ばれ、朝ごはんの湯気が小雪舞う空へ立ちのぼっていきます。

●表紙：初雪
はら ふみ(イラストレーター)

※「めぐり〜ど」は、「愛媛農業 (Agriculture)」を「リード (Lead) する」という意味と「心をつなげる (Agreed)」という意味を込めています。

農の風景Vol.201

愛媛の酒蔵めぐり②⑥～株式会社媛囃子

2

〈特集〉

肥料の新たな共同購入の取り組み

高度化成肥料の銘柄集約と
共同購入で2～3割の
価格引き下げを実現！

6

THE・ねっとわーく

7

統計BOX

8

ふるさと ESSAY VOL.269

『愛媛プロレス』誕生

～四国初のご当地プロレス団体旗揚げ～

キューティエリーさん

10

TOPIC NEWS

15

なんでもBOX

16

READERS通信

NOW NOW COOKING

〈今月の素材〉里芋 (伊予美人)

JA全農えひめ

ホームページ

<http://www.eh.zennoh.or.jp>

■JA全農えひめ「えひめの食」企画

<http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimenosyoku/>

※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

◆(株)えひめ飲料

<http://www.ehime-inryo.co.jp>

◆JAえひめアイパックス(株)

<http://www.iyokkora.jp/>

◆JAえひめ物流(株)

<http://www.jat-ehime.co.jp/>

◆JAえひめフレッシュフーズ(株)

<http://fresh-ranran.jp/>

◆(株)ひめライス

<http://www.himerice.jp/>

◆JAえひめエネルギー(株)

<http://www.ja-ehimeene.co.jp>

高度化成肥料の銘柄集約と共同購入で 2、3割の価格引き下げを実現！

「魅力増す農業・農村の実現に向けたJAグループの取り組みと提案」に基づき、農業者の所得を増大するため、国産化成肥料の購買方式を転換し、平成30年水稻用春肥においては、全国のJAグループで流通する約400の銘柄を10程度の銘柄に集約した上で、県内JAの予約注文を県本部が取りまとめ全国ブロックへ積上げ、メーカーの製造効率を高めることによる大幅な価格引き下げを実現しました。

これまでの肥料流通

日本国内で生産される肥料は約20、800銘柄あり、約3、000の生産業者が製造を行っています。

これは、地域単位・JA単位・県単位で、地域の土地質や気候に適した肥料設計を行い、メーカーに肥料製造を要請し、交渉の中で価格を決定してきた経過によるものです。

地域に適した肥料を使い、販売先

や消費者が求めるこだわりの農産物づくりをめざしてきたことは、決して間違ったことではなく、これからも重要なことです。

しかし、農家の高齢化や担い手不足で農業生産基盤が縮小し、それに伴い肥料の使用量も減少してきた現状においては、必ずしも効率的な肥料製造とは言えず、かえってコスト高になっていることは否めません。

韓国では国策として化成肥料製造において大規模工場を整備し、大手

2社で300銘柄260万トン（1銘柄8、700トン）と少数銘柄大量生産が行われているのに対して、日本では70社が7、000銘柄100万トン（1銘柄140トン）と多銘柄少量生産で非効率な製造となっています。

今回の取組みは、単肥・複合肥料（化成肥料・配合肥料など）有機質肥料などの肥料の中から、これまでの普及性や実績に基づき、高度化成肥料から取り組むことにしました。

表1 全国流通銘柄354銘柄を14銘柄へ

肥料	札幌事業所	東北事業所	関東事業所	北陸・東海・近畿事業所	中四国事業所	九州事業所	全国計
一般高度化成	銘柄数の変更 3銘柄 ↓ 1～2銘柄	85銘柄 ↓ 6銘柄	112銘柄 ↓ 8銘柄	122銘柄 ↓ 6銘柄	68銘柄 ↓ 7銘柄	81銘柄 ↓ 8銘柄	354銘柄 ↓ 14銘柄
	集約銘柄 14-14-14 1銘柄	5-15-15 14-14-14 14-18-14 15-4-15 15-10-10 17-17-17	5-15-15 10-16-16 12-18-14 14-5-14 14-5-14 14-8-8 14-8-8 14-10-13 14-18-14 14-14-14 16-16-16	10-16-16 12-18-14 14-5-14 14-8-8 14-10-13 14-14-14	10-16-16 12-18-14 14-5-14 14-8-8 14-10-13 14-14-14 16-16-16	10-16-16 12-18-14 14-5-14 14-8-8 14-14-14 16-16-16 18-7-7 18-10-14	5-15-15 10-16-16 12-18-14 14-5-14 14-8-8 14-10-13 14-14-14 14-18-14 15-4-15 15-10-10 16-16-16 17-17-17 18-7-7 18-10-14

表2 県内の選定銘柄

集約銘柄	成分	選択理由
14-14-14	窒素 14%、リン酸 14%、加里 14%	農家に最も認知度が高く、米麦・野菜・果樹と広範に使用されている。ホームセンターの主力用品でもあるが、農家の評価を得るためあえて選択した。
14-10-13	窒素 14%、リン酸 10%、加里 13%	過去には同成分の「アラジン」を取扱った実績があり、本県で取扱いの多い「しあわせ化成」14-8-12を集約するのに適している。



▲県内選定銘柄の肥料袋（表面）

JAグループ内の組織協議を経て、高度化成肥料の全国流通銘柄354銘柄を14銘柄へ集約する大胆な案が出され、本県が属する中四国ブロックでは68銘柄を7銘柄へ集約することになりました。

本県は7銘柄の中から県施肥基準・各JA栽培指針・県内の土壌診断結果をもとに2銘柄を選定し、関係機関と成分モードに問題がないことを確認しました。これまで県内に流通していた8銘柄をこの2銘柄へ集約するようJAとの会議の中で周知を重ねてきました。

大胆な銘柄集約

◆特集：肥料の新たな共同購入の取り組み



▲J A全農ホームページでは「低コスト・生産価格引き下げの取り組み」情報を公開している
<http://www.zennoh.or.jp/teicost/index.html>

J A予約の積み上げ

県内全ての総合12 J Aがこの取り組みに賛同し、県本部は10月末にJ Aからの予約取りまとめを行いました。J Aうま・J A新居浜市・J A愛媛たいきの3 J Aはこの段階で、専用チラシによる農家取りまとめを実施しました。

その他のJ Aは春需要期の数量を見込んでの予約となり、県内で約1、400トン積み上げることができました。中四国ブロックにおいては約1万トンが9県から積み上げられ、肥料メーカーとの入札・見積り合せによる価格交渉が11月に行われました。

2、3割の価格の引き下げ

共同購入で積み上げた数量をもつてメーカーと入札を行った結果、J Aからの農家向け供給価格は、昨年の予約価格に比べて、2、3割の引き下げを実現することができました。県内12 J Aの結集した予約積み上げの成果が、この価格引き下げにつながったものです。（J Aは個別経営体であり、J A毎に農家供給価格は異なります）

農家向け推進の実施

10月～来年の2月にかけて、J Aは本格的に30年水稻資材の取りまとめを行い、この中で銘柄集約肥料の推進が展開されます。

各J Aは専用チラシを作成し、銘柄集約と共同購入による価格引き下げの運動主旨を、農家組合員へ幅広くアピールすると同時に予約取りまとめを実施します。

特に、各J Aが選定する担い手農家には、T A C担当者等が訪問し取り組みの主旨説明と資材の注文を働きかけることにしています。

肥料の品質

価格の引き下げと同時に、農家の皆様からの固結性や機械適合性等の高い品質要求にこたえるため、全農独自の肥料品質基準に基づき、メーカーへ製造を要請しています。

機械施肥に支障がないこと、粒度・硬度・水分等の品質基準をメーカーに示すことで、安心してだける肥料の供給を行います。

水稻の収量・品質への影響

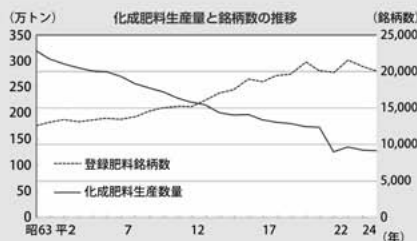
作物が吸収する養分は、施肥した肥料の養分だけでなく土壌からも供給されます。施肥する養分が少し増減しても、収量・品質への影響は少ないと考えられます。

県本部が実施している土壌分析では、県下の土壌の磷酸値は適正範囲にあり、今回の高度化成肥料の施用で磷酸が増加しても適正範囲内にとどまることから、玄米収量・品質に影響はないと考えられます。（J A全農えひめ調査）

肥料の新たな共同購入運動の背景と取り組みの進め方

肥料生産における課題

1. 肥料の代表的な品目である化成肥料の製造量は、この25年間で約1/3に減少していますが、登録銘柄数は、1.5倍以上に増加しています。
2. そのため、1銘柄当たりの生産量は減少し、肥料メーカーの生産が非効率となり、コスト高の要因となっています。



JA全農は「4つの取り組み」により肥料価格を引き下げます

取り組み	現状	肥料の新たな共同購入運動
1	約400銘柄 (全国)	約10銘柄程度に集約 →1銘柄の生産量増
2	70以上の工場 で化成肥料を生産 (非効率)	工場を集約し1銘柄の 生産量を拡大 →生産効率の大幅アップ
3	価格決定後 予約注文	購買数量を事前確定 →積み上げた予約注文数量を 背景にメーカー価格を徹底 比較して購入価格を決定
4	JA利用率の低下	全農業者から予約積み上げ →JA利用率の向上

「成功のカギ」はJAグループの一層の結集

新運動では、JAが積み上げた集約銘柄の予約数量をもとに、JA全農が比較購買を徹底し、最も安価なメーカー・工場から購入します。

取り組みの主な進め方

1. JAの取扱銘柄を集約
2. 栽培暦 / 予約注文書への採用
 - ・JAの設計会議にて集約銘柄の採用。
3. 広報誌等を活用した周知
 - ・全農業者が新運動の取り組みの理解を深めるため、JA広報誌などを利用した周知。
4. TACと連携した推進
 - ・新運動によりJA利用率の向上も同時に期待される。JA未利用低利用農家へより一層の推進。
5. 予約の積み上げ
 - ・新運動は全農業者からの購買数量を事前に確定することで価格引き下げを行う。予約数量の積み上げは当用分も加味。
6. 予定価格の通知
 - ・予約注文書に予定価格の記載が間に合わない場合でも、全農業者へ予定価格を必ず通知。
7. 決定価格の通知
 - ・こちらも全農業者へ必ず価格通知。
8. 集約銘柄の配送
 - ・予約注文数量に基づき集約銘柄を配送。

※5.6.7.8の予定時期は地域により異なります。

銘柄集約と集中購買のイメージ



今後の取り組み

本県は柑橘県であり、果樹生産においては水稲以上に地域毎のこだわりのある有機配合肥料を使用してきました。県内のJAが取扱う果樹用肥料の銘柄は65あり、本県独自で銘柄集約を進め、農業者所得の増大をめざしたいと検討を進めています。また、高度化成に続き、普通化成肥料や一発肥料等の銘柄集約の取り組みを今後進めていきます。

農薬では、担い手直送規格の普及やジェネリック農薬の開発に向けた新たな会社の設立、農機はトラクターの低価格モデル農機のメーカー開発要求など、JAグループ自己改革の取り組みを進めており、都度、新たな情報を提供して参ります。

銘柄集約肥料の価格や納品条件等、詳しくはお近くのJAへお尋ね下さい。



▲中村知事（中央）を訪問



▲▼東京・大田市場で初荷セレモニーを開催



▲量販店での販促活動を通じて愛媛みかんをしっかりとPR

果実課

J A全農えひめ果実課は、今年も愛媛みかんの本格出荷にあわせ、首都圏と関西地区で、「愛媛みかん消費宣伝キャンペーン」を実施しました。

11月2日には、早生みかんの本格販売と愛媛みかん消費宣伝キャンペーンのスタートにあたり、2017愛媛みかん大使4人とJ A全農えひめの菅野幸雄運営委員会会長が、愛媛県庁に中村時広知事を表敬

THE

ねつとわーく

「愛媛みかん大使による消費宣伝キャンペーンを実施！」

訪問しました。

愛媛みかん大使は「愛媛みかんが、これまで以上に消費者の皆様に愛されるためにも、私達愛媛みかん大使4人が愛媛県を代表して元気にPRしてまいります」と伝え、みかんのカゴ盛りを贈呈。試食した中村知事からは、「秋の降雨も生産者のきめ細やかな管理のおかげで、濃厚な美味い味に仕上がっている。皆さんも自信を持ってPRしてください」と激励の言葉がありました。

愛媛みかん消費宣伝キャンペーン

今年の愛媛みかん消費宣伝キャンペーンは、11月7日～11月10日まで、首都圏と関西地区で、キャンペーン活動を展開しました。

県内産早生みかんが出揃った11月7日には、中村知事と県内主産地J Aとともに東京・大田市場競売場で初荷セレモニーを行い、早生みかんの出荷スタートと愛媛みかんの品質をアピールしました。

キャンペーン期間中は、マスコミ訪問活動や店頭販促活動、市場訪問などを精力的に行い、愛媛みかんをPRしました。

◆「オレンジロード」について

J A全農えひめは、今年も11月3日「みかんの日」から4月14日の愛を深める記念日「オレンジデー」まで、「オレンジロード」として取り組んでいます。「オレンジロード」は、「愛のシンボル」であるオレンジ＝季節の旬の柑橘を「オレンジデー」までの記念日ごとに贈り合うことで、愛を育み深めていく「道のり」です。今年も、県内J Aと一体となり、温州みかんやこれから旬を迎える愛媛産柑橘の消費拡大と「オレンジデー」の定着に向けて取り組みます。

統計BOX

稲作で給与所得者の平均年収をめざす —平成27年農業経営統計調査「営農類型別経営統計」から—

図1 稲作部門粗収益及び農業経営費（都府県、水稻作付面積10a当たり）

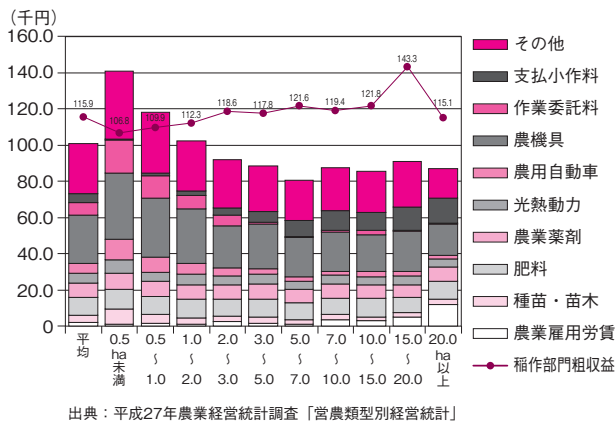


図1の棒グラフは経営費の比較です。経営費は0.5ha未満の階層ではおよそ14万円、1〜2haでは10万円

1ha未満階層では経営費が粗収益を上回る

今回はその中から、北海道を除く都府県の水田作経営のうち、稲作の販売収入が最も多い経営体（稲作第1位経営）1,318戸の結果から稲作部門の経営収支等について、稲作付面積規模別に見てみましょう。

農業経営統計調査「営農類型別経営統計」は水田作、畑作、果樹作、酪農や養豚等経営体の、農業はもとより農外事業、財産、家計費を含めた経営収支を把握する調査で、全国でおよそ4,500戸の農家の皆さんにご協力をいただいています。

図2 稲作部門所得（都府県、水稻作付面積10a当たり）

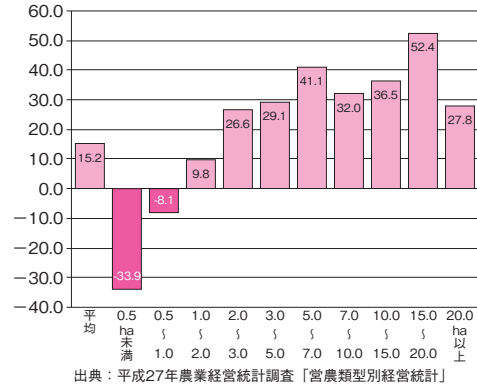


図2は、粗収益から経営費を引いた所得の結果です。0.5ha未満では3万円を超える赤字となつていますが、1ha以上で黒字に転じ、2haを超える各階層では平均所得を上回る所得を得ています。

表1に稲作1位経営1戸当たりの主要項目を掲げています。農業経営関与者一人当たりの所得をみますと

2〜3ha階層以上で、規模のメリットが出現

折れ線グラフは粗収益（各種補填金・助成金や農業生産関連事業・家計消費額を含む）ですが、1ha未満の階層では経営費が粗収益を上回っています。

円ですが、2haを超えると9万円前後となつていきます。費目別には肥料、農薬などはいずれの階層でもほぼ一定ですが、農業用自動車、農機具、作業委託料などは小規模ほど、支払小作料や雇用労賃などは大規模ほど多くなっています。

表1 稲作1位経営の主要項目一覧表（都府県、1戸あたり）

区分	平均	0.5ha未満	0.5~1.0	1.0~2.0	2.0~3.0	3.0~5.0	5.0~7.0	7.0~10.0	10.0~15.0	15.0~20.0	20.0ha以上
水田作付延面積 (a)	155	35	74	153	282	455	771	1,015	1,622	2,236	5,815
水稻作付面積 (a)	133	34	71	142	245	381	586	871	1,257	1,773	3,389
自営農業労働時間	791	430	557	869	1,329	1,790	2,449	2,966	4,126	4,050	9,078
①農業粗収益 (千円)	2,147	495	994	2,034	3,912	6,521	10,747	15,945	23,948	34,465	69,348
②農業経営費 (千円)	1,786	616	1,069	1,812	2,953	4,605	7,029	10,614	16,284	20,846	50,015
①-②農業所得 (千円)	361	△121	△75	222	959	1,916	3,718	5,331	7,664	13,619	19,333
農業経営関与者一人当たり所得 (千円)	187	nc	nc	113	482	949	1,746	2,391	2,948	5,383	7,295
集計経営体数 (戸)	1,318	166	204	247	146	153	84	94	103	57	64

出典：平成27年農業経営統計調査「営農類型別経営統計」
注：ncは計算不能

中国四国農政局愛媛支局 統計チーム

15〜20ha階層では53.8万円、20ha以上階層では73.0万円となつていきます。9月に国税庁が発表した平成27年分民間給与実態統計調査結果によりますと、給与所得者一人当たりの平均年収は42.0万円。これを超えるには作付面積15haがひとつの目安といえます。



『愛媛プロレス』誕生

～四国初のご当地プロレス団体旗揚げ～

2016年4月2日、愛媛県に、プロレス団体を旗揚げした。プロレスが好きだったからではない。格闘技すら見たことはなかった。「地域活性×プロレス」。このモデルに光明を感じたことがきっかけだった。

「故郷は遠きにありて思ふもの」という詩節を何度噛み締めたことか。若輩にして志半ば、郷愁にかられ都会から松山に帰ってきた私に、このまちは、あまりにも保守的で退屈に思えた。2年ほど前、仕事の関係でプロレスイベントに携わり、初めて地域密着型の「ご当地プロレス」が全国各地で活動しているのを知った。肌で感じたプロレスブームの兆し。戦後、日本中が熱狂した「プロレス」というスポーツエンターテインメントの歴史。

「たくさん応募はないだろう…」と、半信半疑で企画したご当地プロレス団体発足案。「プロレスラー募集！」のぼりがはためいて1か月。私は嬉し

い裏切りに遭う。県内各所から60件を超える問い合わせがあったのだ。

『四国初のプロレス団体誕生』が現実味を帯びたとき、代表を引き受けるかどうか迷った。失敗の確率が高すぎる。未知の業種。知識も経験も無い。新しい何かをゼロから作り出す困難さは、計り知れない。そんな私を動かししたのは、プロレスラーになりたいと応募してきた2人だった。素直さを絵にかいたような赤ら顔の17歳の青年は、「高校を卒業したら東京でプロレスラーのプロテストを受けるつもりでした。でも愛媛にプロレス団体ができるなら、ここで夢を叶えたいです」と。堂々たる体躯の50代の紳士は、子供のころからプロレスラーになるのが夢だったと語ってくれた。「今生ではあきらめなければならぬ」と思っていたが、まさかこの年齢で夢が叶うかもしれない、本当に感謝している」と、小娘の私にお礼まで述べて下さった。

キューティエリー

ELLY CUTIE

■プロフィール■

四国初のご当地プロレス団体「愛媛プロレス」代表。松山市出身、本名・年齢・非公開。全国でも珍しい女性代表ながら、プロレス団体運営を通じて地域活性に尽力し、時にディーバとして試合にも参加し、リングで試合を盛り上げる。キャッチコピーは「愛媛産には愛がある。愛がいっぱいキューティエリー」。得意技ハイキック、必殺技はラ・マヒストラル（体固め）。地域創生やPRについての講演を行う傍ら、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための活動も行っている。

「愛媛プロレス」は、12月23日（土・祝）、松山市総合コミュニティセンターにて「Winter Dynamite～王者威風～」を開催する。

●「愛媛プロレス」ホームページアドレス
<http://www.ehime-pro.com/>



この街にも、まだまだたくさん面白くて、素敵な人間がいるじゃないか。私は無謀な挑戦に挑むことにした。

4か月の準備期間を経て、旗揚げ戦を行ったのは松山市中心地の地下にあるライブハウス。「ここにリングを入れて、試合をしてもいいですか？」という素っ頓狂な私のお願いを、オーナーは二つ返事で了承してくれた。試合当日、レスラーが天井で頭を打ち、

私は肝を冷やした。そのシーンが全国放送で「愛媛県にご当地プロレス発足」とユーモラスに流れた。

公募で決まった団体名称は、「愛媛プロレス」。1年半が過ぎた現在、団員は13歳中学生から50代半ばまで、23名。道場は南吉田の倉庫街にある。倉庫オーナーは、プロレス活動のための使用許可を掛け合せて下さった。地域貢献に理解のある不動産会社様が、ス

ポンサーになって下さった。全国各地の先輩プロレスラーに教わりながら、団員達は、練習を繰り返した。

収益の柱は、「イベントに呼んで頂く売上」と「スポンサー様からの寄付金」。不安だったが、実に様々な自治体・企業様から呼ばれ、試合をさせて頂いた。新居浜・今治・西条、四国中央市、鬼北町、八幡浜商店街・松山市中央商店街・温浴施設・介護施設・カーディーラー店舗・道後の旅館・遊技場。

この1年半は、私自身が身をもって地元の魅力を再発見する巡業の旅さながらだった。愛媛県出身で地元なら詳しいと思っていたのが恥ずかしいほど、愛媛は広く、自然にあふれ、資源に富んでいた。保守的と思っていたのが嘘のように、どこの馬の骨ともわからない発足直後のプロレス団体を温かく迎え入れてくれる、遊び心のある素敵な方々のご縁が繋がっていった。動けば、違う景色が見えてくると知った。

今回は、「お堅い」イメージの「JA全農えひめ」様からの依頼に驚いた。そういえば、「地域密着の大先輩」じゃないか。本名不詳のマスクウーマンに依頼を下さった粋な計らいに感謝したい。

「愛顔つなぐえひめ国体」みきゃん広場にて愛媛の特産物をPR!

J A全農えひめは、「愛顔つなぐえひめ国体」開催中の9月30日、10月1日、7日、8日の4日間、愛媛県総合運動公園（松山市）のみきゃん広場にて、県内特産物のPRを目的にブースを出店。伊予牛「絹の味」の牛串、「ふれ愛・媛ポーク」の豚串の販売や、みかんジュース、県産はだか麦を使用した麦茶「はだかんぼう麦

茶」の試飲・販売、みかんツリーの展示などを行いました。

J A全農えひめは、「愛顔つなぐえひめ国体・えひめ大会」をオフィシャルスポンサー、オフィシャルサプライヤーとして応援。えひめ国体は9月30日～10月10日、えひめ大会は10月28日～10月30日に県内で開催されました。



屋時になると、ボリュームたっぷりの愛媛のブランド牛串、豚串を求めて長蛇の列が！



開会式当日は気温も高かったため、選手や来場者からは冷たいジュースや麦茶が好評。



みかんツリーの前では、記念撮影をする県外からの来場者たちで賑わっていました。

●愛媛県産和牛シンガポール輸出壮行会&試食宣伝 愛媛県産和牛「伊予牛」海外初輸出！

J A全農えひめと愛媛県は、9月27日、県産和牛シンガポール初輸出を記念して、今治市野間の「和牛 新（あらた）」で壮行会を開催しました。壮行会には関係者約30人が集まり、今後の県産和牛の輸出拡大に期待を寄せました。

また、同国の商業施設「エンポリウムショクヒン」では、10月25日から11月5日まで「愛媛フェア」を開催。精肉売場では、同農場から出

荷された「伊予牛」1頭分を販売しました。

フェア期間中、同農場の新開俊之さん、県、J A全農えひめなど関係者15人が同施設で試食宣伝を行いました。来場者からは、「柔らかくて美味しい」と好評でした。

J A全農えひめ畜産部は「県内畜産の基盤強化や認知度向上を目的に、今後も輸出に積極的に取り組みたい」としています。



輸出壮行会



シンガポール商業施設で試食宣伝 新開さん（右）と来場者

●平成29年度愛媛県園芸大会

「柑橘王国EHIME 目指せ世界ブランド」



愛媛県とJ A全農えひめ、愛媛県果樹同志会は、10月18日、松山市の(株)えひめ飲料で、「柑橘王国EHIME 目指せ世界ブランド」をテーマに、平成29年度愛媛県園芸大会を開きました。

大会は昭和22年から果樹農業の振興をめざし毎年開催。今回は、生産者、J A・市場等から関係者約500人が出席。園芸功労者表彰、28年度優良卸売会社として丸果石川中央青果(株)の表彰、指定卸売会社への指定証交付などを行いました。

大会宣言では、果樹への影響が懸念されるTPPや農業改革等が進められようとしている中で、将来に明るい展望を持って経営に専念でき、次代の後継者に安心して経営をつなぐため、最大限の自助努力の発揮を確認。①基本管理で安定生産、匠の技術で高品質生産②計画出荷をチームえひめで達成しよう③STOP耕作放棄地！ 広げよう農地集積④消費者への大切な贈り物「安全・安心」を満場一致で採択しました。

また、2017愛媛みかん大使の4人の紹介、J A全農えひめから29年産愛媛産柑橘の生産販売状況と宣伝計画についての報告。愛媛県農林水産研究所、企画・新品種戦略室の喜多景治室長の講演「鳥獣害対策について」と題した講演がありました。

なお、平成29年度園芸功労者表彰受賞者は次の皆さん（敬称略）。

【愛媛県農産園芸功労知事表彰】

▽藤木政弘（今治市）▽中山忠昭（松山市）▽木下洋一（砥部町）▽河野敏（八幡浜市）▽玉井幸紀（同）

【果樹産業振興桐野基金果樹産業功労者表彰】

▽J A周桑キウイフルーツ部会（西条市）▽越



知事表彰を受ける藤木さん



愛媛みかん大使の紹介

智文雄（今治市）▽石田慎一（砥部町）▽大内明男（松山市）▽八木勝幸（同）▽丸井幸造（大洲市）、中岡康文（八幡浜市）、谷口豊茂（同）、高田博行（宇和島市）

【果樹産業振興全農愛媛県本部長賞】

▽松田雄輝（今治市）▽大内健作（砥部町）▽池本雄吉（松山市）▽山本豊一（同）

●平成29年度愛媛県農林水産参観デー

J A全農えひめは米の食味分析や資材、協賛展を実施

10月13日～14日の2日間、愛媛県農林水産研究所と同果樹研究センターで「次世代へ、技術でつなぐ えひめの農林水産業」をテーマに「平成29年度愛媛県農林水産参観デー」が開催されました。

J A全農えひめは今年も愛媛県農林水産研究所で肥料・農薬やハウス・農機等資材の紹介・展示のほか、来場者が持ち寄った米の食味分析を実施。果樹研究センターでは、協賛展として「くり品評会」の出品果実と立木部門入賞ほ場パネルの展示紹介、かんきつ・落葉果樹の展示を行いました。

このほか会場では、愛媛の新品種紹介や高品質・安定生産・省力化、安全・安心をキーワードとした新技術等の紹介が行われ、県内各地から大勢の方が来場し賑わいました。



米の食味分析コーナー

●平成29年度早生みかん果実コンクール

宇都宮治忠さんが愛媛県知事賞受賞！

J A全農えひめと愛媛県果樹同志会は、10月24日、「平成29年度早生みかん果実コンクール」審査会を開催し、県内各地から出品された95点の中から果実の外観と糖・酸のバランス等を基準に審査した結果、愛媛県知事賞の宇都宮治忠さん（J Aにしうわ・「宮川早生」）ほか入賞者8人が決まりました。出品果実は、翌日開催された「みかん研究所参観デー」（宇和島市）で展示されました。

表彰は、来年3月の愛媛県果樹同志会大会で行われます。

その他の受賞者は次の皆さん（カッコ内は

J A名・敬称略）。

▽全農愛媛県本部長賞＝松浦喜孝（にしうわ）▽果樹同志会長賞＝片岡正嘉（ひ

がしうわ）、▽優良賞＝山本嘉人（にしうわ）、宮本定（同）、中井平昌（同）、前田隆雄（えひめ中央）、渡部正義（おちいまばり）



みかん研究所参観デーで展示

●J A石碑大展示予約会

県内7会場で開催し、目標以上の実績をあげる

J A全農えひめ生活資材課と県内J Aは、11月17日から19日までの3日間、㈱イフイ本社（松山市石手寺前）をはじめ、西条店・今治店・四国中央店・大洲店・八幡浜店・宇和島店の県内7か所の特設展示場で、J A組合員限定の『J A石碑大展示予約会』を開催しました。

良質で厳選された愛媛の銘石「大島石」など各種石碑を豊富に取り揃え、墓石の完成時の形がイメージできるよう納骨舞台を含めたセット墓から小物まで大量に展示した会場には、期間

中多くの方が来場。目標を上回る成約実績をあげました。



●愛媛オリジナル品種「紅まどんな」の出荷スタート！ 上甲副知事を表敬訪問し「紅まどんな」シーズン到来を報告！

J A全農えひめは、11月17日、「紅まどんな」の販売スタートにあたり、J A全農えひめの小越愼介県本部長とJ Aえひめ中央の福島龍雄代表理事理事長らが愛媛県の上甲俊史副知事を表敬訪問し、生産概況や販売計画について報告しました。



上甲副知事（中央）、小越県本部長（右から2人目）、福島理事長（左から2人目）。

J A全農えひめ果実課は、J A全農が商標登録している愛媛オリジナル品種「紅まどんな」のブランド確立・強化につなげようと、28年産から県内統一の「販売解禁日」（卸売市場販売開始日）を設定しています。解禁日は、品質重視のため作柄及び果実品質内容を考慮して毎年決めることにしており、今年産は11月18日に設定。11月16日以降、県内最大産地のJ Aえひめ中央をはじめ各産地で出荷が順次始まりました。

上甲副知事は、「紅まどんなは高級柑橘として市場や消費者から高い評価をいただいている。全国のたくさんの方に食べていただけてますます愛媛のファン拡大に繋げていってほしい」と話した。

J A全農えひめは、首都圏と関西圏のデパートなど51店舗で、試食宣伝を行い、販促活動に取り組む予定です。

●平成29年産「紅まどんな選果目揃え会」 ブランド確立に向け期待を裏切らない商品提供を呼びかける

「紅まどんな」の出荷を前に、J A全農えひめ果実課は、11月10日、伊予市のJ Aえひめ中央南伊予支所で「紅まどんな選果目揃え会」を開き、ブランド確立に向けて消費者・販売先の期待を裏切らない商品の提供を呼びかけました。

目揃え会は、品質の向上と品格の統一をめざし、平成24年から行っており、6回目。J A販売・選果担当者と愛媛県、市場から38人が出席し、J A全農えひめの担当者が、出荷要領と選果基準を具体的に説明し、基準を順守して品格・価格に見合った商品を提供するよう確認・徹底しました。

「紅まどんな」は面積・生産量とも年々拡大しており、J A全農えひめでは、目揃え会の開催やモデル園の設定、販売促進活動などを通じて、ブランド化に取り組んでいます。

29年産「愛媛果試第28号」（紅まどんな含む）の面積は、前年比106%の237ha、生産量は前

年比119%の2,661トンを見込んでいます（10月1日現在・J A関係）。

今年産は雨が多く低糖度が心配されましたが、生産者のきめ細やかな栽培管理で例年並みの品質に仕上がっています。



J A全農えひめ担当者（右）の説明を受けるJ A担当者

●2017年度「愛媛県くり品評会」

農林水産大臣賞に佐々木朝雄さん、小屋敷健太郎さん

愛媛県くり研究同志会（大野奉孝会長、会員数1,931人）とJA全農えひめは、10月12日松山市で2017年度「愛媛県くり品評会」果実部門審査会を開き、農林水産大臣賞の小屋敷健太郎さん（JAひがしうわ）をはじめ各賞を決めました。立木部門についても農林水産大臣賞の佐々木朝雄さん（JAひがしうわ）をはじめ受賞者を発表しました。

果実部門の出品物と立木部門優秀者のパネルは、10月13日から松山市の県農林水産研究所果樹研究センターで開かれた「愛媛県農林参観デー」会場で展示。表彰式は12月に行われます。

愛媛県は、2016年くり生産量が1,700トンで全国第3位の産地。今回は、各地区予選で選抜された果実28点、立木部門14点が出品されました。

その他の受賞者は次の皆さん（カッコ内はJA

名・敬称略）。

【立木部門】▽

愛媛県知事賞＝

井川一郎（えひ

め中央）▽全農

愛媛県本部長賞

＝山村信昭（同）

▽くり研究同志

会長賞＝三ッ井

守恵（同）、岡本実男（愛媛たいき）、河野章治

（ひがしうわ）

【果実部門】▽愛媛県知事賞＝三瀧俊二（同）

▽全農愛媛県本部長賞＝三ッ井守恵（えひめ中央）

▽くり研究同志会長賞＝林敏彦（ひがしうわ）、岡崎良一（同）、松本典子（愛媛たいき）



果実部門で農林水産大臣賞を受賞した小屋敷さんの出品くり（品種＝石鎚）

●平成29年度愛媛県総合畜産共進会 第79回家畜改良共進会肉用種牛の部 農林水産大臣賞に高橋節雄さん！

平成29年度愛媛県総合畜産共進会の第79回家畜改良共進会・肉用種牛の部が、11月7日、西予市野村町畜産総合振興センターで開催されました。農林水産大臣賞に未經産牛部門2区優等賞首席の高橋節雄さん（JA周桑）の出品牛「あい」が選ばれました。

農林水産省生産局長賞（経産牛部門優等賞首席）は、藤原輝明（JAひがしうわ）の「たかゆり」、中国四国農政局長賞（雌子牛部門優等賞）は角藤幸男さん（JAひがしうわ）の「ひささくら」が受賞。

共進会は、家畜改良と畜産の振興を図るため、（公社）愛媛県畜産協会が毎年開催。今回は、雌子牛の部7頭、未經産牛16頭、経産牛10頭が出品されました。

その他の受賞者は次の皆さん（敬称略・カッコ内はJA名）。

【雌子牛部門】▽一等賞＝藤原輝明（ひがしうわ）、楠藤雄（同）

【未經産牛部門1区】▽優等賞首席＝池田一成（えひめ南）▽優等賞次席＝井関秀夫（ひがしうわ）▽一等賞＝土居茂（ひがしうわ）、金

光博隆（同）、田中徳男（同）

【未經産牛部門2区】▽優等賞次席＝野村高校（同）▽一等賞＝鈴木伸茂（同）、大森康敬（愛媛たいき）、柳谷産業（松山市）

【経産牛部門】▽優等賞次席＝福山保（愛媛たいき）▽優等賞3席＝光沖明（ひがしうわ）

▽一等賞＝岡山則雄（同）、田中牧場（同）、池田一成（えひめ南）、山岡造（愛媛たいき）、柳谷産業（松山市）



農林水産大臣賞を受賞した高橋さんと「あい」

なんでもBOX

●ひめライス新米キャンペーン抽選会 当選者1,000人決定！

㈱ひめライスは、11月13日、松前町の本社で、「ひめライス新米キャンペーン」抽選会を行い、松田一人社長らが、1万7,447通の応募の中から、当選者1,000人を選びました。

同キャンペーンはイメージキャラクターのお米のロックバンド「米（ベイ）ベーズ」を前面に出し、ポスターやテレビCMを通じてPRを展開。昨年に引き続き1商品購入で2口応募できるよう工夫。46店舗に新米コーナーを設置したほか、のべ19店で店頭試食宣伝を実施しました。応募数は前年比91%と減少したものの、期

間中の販売実績（数量ベース）は前年比111%と伸長しました。

松田社長は、「ハガキで寄せられたご意見やご要望を顧客満足度の向上に活かし、利用定着と愛媛の米の販売拡大につなげたい」としています。



松田社長（中央）はじめ職員が抽選

●第26回愛媛農林水産賞

県くり研究同志会、県椎茸同志会が優秀賞受賞

愛媛県の農林水産業の振興や発展に功績のあった個人・団体を表彰する『第26回愛媛農林水産賞』（愛媛新聞社主催）の表彰式が、11月2日松山市の愛媛新聞社で行われ、優秀賞2団体と奨励賞2団体1個人が表彰されました。

優秀賞には、県くり研究同志会（大野奉孝会長）、県椎茸同志会（成高王洋会長）が受賞。奨励賞には、大洲市青年農業者協議会（井上博人会長）、壬生川地区地域水産業再生委員会（本田義雄会長）、上川勝利さん（大洲市）が受賞しました。

受賞者を代表して大野奉孝会長が謝辞を読み

上げ、「今後も愛媛の農林水産業の発展のために全力を尽くしたい」と今後の抱負を語りました。



表彰を受ける県椎茸同志会の成高会長（右）



謝辞を述べる県くり研究同志会の大野会長

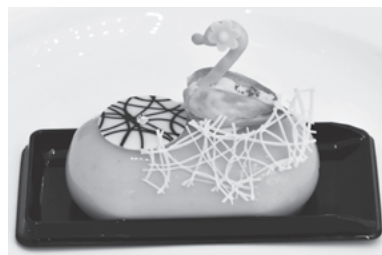
●えひめスイーツコンテスト2017

愛媛の魅力が詰まったスイーツが勢ぞろい

愛媛県産農産物を使ったスイーツを公募・審査する「えひめスイーツコンテスト2017」（主催：えひめ愛フード推進機構・愛媛新聞グループ、共催：JA全農えひめ）の最終審査と結果発表、表彰式が、11月10日、松山市の松山モノリスで開かれました。

9回目の今回は、一般部門を学生と一般の2部門に変更し、プロ部門47作品、学生の部159作品、一般部門33作品の計239作品の応募がありました。最終審査では書類審査を通過した計36点を有名シェフ・パティシエなど審査員が試食・審査し、各賞が決まりました。

入賞作品は、えひめ愛フード推進機構ホームページ内「スイーツプロジェクト」の中で紹介されています。



プロ部門洋生菓子の部グランプリ「小さな休息（白鷺伝説）」



●特集「温州みかんの出荷販売対策と消費宣伝計画」とてもわかりやすかったです。こんなに詳細に計画を立てて、消費宣伝をさせていただいているんだと思うと感心しました。
(八幡浜市・米花 佐智子さん)

●13年間、仕事の関係で岐阜に住んでいました。その時は、愛媛のみかんがとても恋しかったです。定年後は、手がオレンジ色になるほど、みかんを食べています。愛媛みかん大使の皆さん、今年も県内外への愛媛みかんの消費宣伝、頑張ってくださいね！
(松山市・松本 興八さん)

●今年もみかんの季節がやってきましたね。現在はたくさんみかんの品種があり、年中みかんを楽しむ事ができますが、寒い時期にコタツで食べるみかんはやはり格別です。美味しい愛媛みかんをぜひみかん大使の皆さんに自信を持ってPRして欲しいと思います。
(松前町・田中 克也さん)

●毎回、表紙の絵を楽しみにしています。季節ごとの昔懐かしい風景が自分が子どものころに過ごした田舎そのもので、あたたかい気持ちにさせてくれます。
(西条市・瀬川 憲子さん)

●エッセーを読んで。子どもたちが小学生の頃、農作物の収穫時期に「お手伝いの日」というのがあった。



今回の「あぐり〜ど」は、新春特別号（2018年1月号）です！！

があって、みかん農家である我が家はみかん採りをしていました。おやつを持ってビクニック気分、家族で賑やかに収穫をしたあの頃は懐かしく大切な思い出です。また、昨今は、いつも持ち歩いているスマホで調べれば何でも分かる時代ですが、年齢と共に身に付いた豊かな知恵、経験、技術は本当に何事にも代え難い財産だと感じます。
(西予市・毛利 徳子さん)

●統計BOXを読んで。高齢化になり、担い手が減ってきています。ますます田畑は荒れて、イノシシの棲み処となり、日中でも道路を走り回っている住みにくい時代になったと感じています。
(今治市・村越 久美子さん)

●愛媛県産はだか麦、生産量30年連続日本一。すごいですね！我が家でも丸麦を使って、毎年みそを手作りしています。手作りみそ、とても美味しいです。
(大洲市・矢野 美恵子さん)

●大成功で閉幕したえひめ国体・えひめ大会。選手活躍に加えて県民あげてのおもてなしや応援に感動しました。ひめライスの新米キャンペーン「サンキュー米ペー」、ネーミングのユニークさに思わず笑みがこぼれてしまいました。
(西条市・松木 虎正さん)

今月のクイズ

J A全農えひめでは、今年も11月3日から4月14日まで「愛のオレンジロード」の取り組みを進めています。11月3日と12月3日は何の日でしょうか？

「○○○○」

プレゼント

クイズに正解した方の中から抽選で、図書カード1,000円分を10名様にさしあげます。

応募方法

折り込みハガキにクイズの答えと本誌に対するご意見・感想などをお書き添えの上、ご郵送ください。

締切り

平成30年1月19日（当日消印有効）

発表

「あぐり〜ど」2・3月号で発表します。

当選者発表

10・11月号の答えは「サンキュー米ペー」でした。

たくさんのお便りありがとうございました。

厳正な抽選の結果、次の10人の方に図書カード1,000円分をお送りします。

井上 喜美さん（八幡浜市）	阿部 節男さん（今治市）
松本 里香さん（松山市）	武田 五月さん（西条市）
山田 祥江さん（松山市）	大野美佐枝さん（内子町）
岡田 隆義さん（今治市）	奥田 大貴さん（内子町）
石田 律子さん（宇和島市）	武智セツ子さん（松山市）

編集後記

★あつという間に今年もあとひと月となりました。クリスマスに正月…冬はイベントが盛りだくさんですね。毎年、J A愛媛ビルのある松山市花園町通りはとても綺麗なイルミネーションで街が色づきます。冬の間は毎日、仕事終わりに綺麗なイルミネーションを見れるかと思うと苦手な冬もなんだか楽しみです。ただ、冬はインフルエンザや風邪には要注意！皆さんも、体調には十分気を付けて、お過ごしください。

（有紗）



NOW NOW

COOKING

今月の素材

里芋(伊予美人)



色が白くて柔らかく、
粘りが強い、伊予美人



(右) 里芋まんじゅう 生姜あんかけ、(後) 里芋とブリの煮物
(左) 里芋と豚肉の照り焼き

指導/学校法人愛媛学園 (愛媛調理製菓専門学校) 大佐古 正子先生

里芋と豚肉の照り焼き

〈材料・4人分〉	※1人あたり約248kcal
里芋	4個 (約400g)
豚モモ肉 (スライス)	160g
片栗粉	適量
人参	1/4本 (約30g)
シメジ	1パック (約100g)
サラダ油	少々
酒	50cc
みりん	50cc
しょうゆ	50cc
砂糖	大さじ2
ゴマ油	大さじ1
青ネギ (小口切り)	2本分

〈作り方〉

- ① 里芋は皮をむき、4等分の輪切りにし、電子レンジにかけ、粗熱をとり、片栗粉をまぶす。
- ② 豚肉は5～6cmに切り、片栗粉をまぶす。
- ③ 人参は短冊切り、シメジは石づきをとり、ほぐす。
- ④ フライパンにサラダ油を熱し、①を両面焼いてとりだし、サラダ油を加えて②を炒め、③を加えてさらに炒める。
- ⑤ ④の里芋を入れ、④のタレをからめて、ゴマ油を加える。
- ⑥ 器に盛り、小口ネギをのせる。

里芋とブリの煮物

〈材料・4人分〉	※1人あたり約320kcal
里芋	8個 (約480g)
ブリ (切り身)	4切
菊菜	1束 (約200g)
生姜	1かけ
水	100cc
酒	100cc
砂糖	大さじ3
みりん	50cc
しょうゆ	50cc

〈作り方〉

- ① 里芋は皮をむき、縦4等分のくし切りにし、電子レンジにかけます。
- ② ブリは半分に切り、熱湯にサッと入れて霜降りにし、冷水にとって水気をよく切る。
- ③ 菊菜は塩茹でして冷水にとり、4～5cmの長さに切る。
- ④ 生姜は飾り用の針生姜 (千切り) を作り、残りは薄切りにする。
- ⑤ 鍋に④と薄切り生姜を入れて沸かし、②を加えて3～5分炊き、一旦とりだす。
- ⑥ ①を入れて8～10分弱火で炊き、煮汁が半分の量になれば、⑤のブリを加え、照りが出るまで少し炊く。
- ⑦ 器に盛りつけ、③を添え、針生姜を飾る。

里芋まんじゅう 生姜あんかけ

〈材料・4人分〉	※1人あたり約193kcal
里芋	6個 (約400g)
塩	小さじ1/4
片栗粉	大さじ1/2
鶏ミンチ	100g
酒	大さじ2
砂糖	大さじ2
しょうゆ	大さじ2
生姜 (みじん切り)	1かけ
片栗粉	適量
サラダ油	大さじ1
ダシ	240cc
みりん	大さじ2
薄口しょうゆ	大さじ2
砂糖	大さじ1
生姜汁	小さじ1
水溶き片栗粉	大さじ2～
三つ葉	6本
柚子の皮 (千切り)	1/4個

〈作り方〉

- ① 里芋は皮をむき、4等分に切り、電子レンジ (600W 3分、裏返し3分) にかけて。柔らかくなればつぶして、塩と片栗粉を加えて混ぜ合わせる。
- ② 鍋に鶏ミンチと酒を入れてよく混ぜ、火にかけてミンチがバラバラになれば、①を加えて煮詰める。
- ③ ①を4等分し、平らに広げて②を包み、丸めて少し平らにし、片栗粉をつける。
- ④ フライパンに油を熱し、③の両面を焼く。
- ⑤ 鍋に⑤を沸かし、水溶き片栗粉でとろみをつける。
- ⑥ 器に④を盛り、⑤をかけ、茹でて3cmに切った三つ葉、柚子の皮を飾る。



えひめ逸品柑橘

冬限定

愛媛

ポンカン

サイダー



柑橘王国「愛媛」の隠れた逸品をお届け

「ポンカン」は、柑橘類の中でも糖度の高い品種で、愛媛でも人気の柑橘として親しまれています。しっかりした甘みとやわらかい酸味が特徴のポンカン果汁炭酸をお楽しみください。



株式会社 えひめ飲料

〒791-8603 松山市安城寺町478番地

TEL: 089-923-1500 FAX: 089-924-0304

<http://www.ehime-inryo.co.jp>

(通販専用) <http://www.pom-j.com>

肥料の新たな共同購入運動

さらなる生産コスト低減のために



JA全農は、組合員からの事前予約数量の積み上げにもとづき、相見積り・入札などにより徹底比較して、肥料価格のさらなる引き下げをめざします。

価格引き下げに向けた 4つの取り組み

- 1 銘柄の絞り込み（銘柄集約）
- 2 メーカーの絞り込み（価格の徹底比較）
- 3 購買数量の事前確定（組合員の事前予約制）
- 4 運動参加者の拡大（JA利用率の向上）

対象となる肥料

以下の条件に合致する一般的な化成肥料を対象とします。

※硝酸系、緩効性、微量要素入、有機入、低成分系は除きます。

- 肥料の流通の中心を占めている。
- 製造できる工場が多い。
- 銘柄の絞り込みが容易である。

平成30年の春用から
スタート



この冊子は再生紙を使用しています。